

2021 年度実施概要

学校名

兵庫県姫路市立家島中学校

採択活動名

ふるさとの海を知り、伝統を守ろう

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

| 単元名 | 学年 | 教科 |
|--------------------|------|-----------------|
| 1. 故郷の海を知り、伝統を受け継ぐ | 1 学年 | 総合音楽美術 保体家庭科 |
| 2. ふるさとの産業について知る | 2 学年 | 総合、特活 |
| 3. ふるさとの海を知り、発信しよう | 3 学年 | 総合、国語、 美術、保体 |

取り組みの概要

1. 伝統を受け継ぐ

①家島船方太鼓（1，2年生）

家島を訪れた方を歓迎する家島船方太鼓。平成 18 年から家島中学校 1 年生が伝承している。秋、学校行事や地域の行事で演奏している。例年は 4 月に 2 年生から 1 年生へと引継式を行っている。しかし昨年度は、コロナ禍で演奏の機会が減ってしまった。そこで 2 年生が美術館との連携授業の際、演奏を披露し講師の先生方を歓迎した。



②家島に感謝する日（全学年）

昭和、平成、令和と受け継がれてきた地域の清掃活動。近年は生徒数が減少し、海岸や港周辺の清掃活動に取り組んでいる。漂着ごみを回収し分別を行う中で、発泡スチロールやペットボトルなどのプラスチックごみの多さに生徒も心を痛めている。この活動を通して、ふるさとの海の現状を知るきっかけとなった。3 年生は海洋プラスチック問題について調べプレゼンテーションの作成に取り組んだ。



2. 地域を知る

①海の日体験セーリング（ヨット乗船体験）（1，3年）

地域の海のレジャーについて知る機会として、姫路ヨット協会の指導のもと、ヨットの乗船体験を行った。例年はセールトレーニングとして操船を学ぶ体験を行ってきたが、コロナ禍で、活動が制限される中での体験となった。ヨットの構造や帆走の原理、家島とヨットの関係、校区の海の特徴等について学んだ。



また、姫路海上保安部により「海の安全」について講習を受け、海辺でのレジャーの安全に関する知識を得た。海上保安部の仕事についても紹介していただき、勤労観、職業観の発達の一助となった。

②職場体験（2年）

例年、兵庫県では「トライやる・ウィーク」として5日間の職場体験を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5回に分けての体験活動となった。そこで本校は海洋教育の一環で校区男鹿島での採石場の見学、「海の家」中村荘での地引網体験、消防署家島出張所での救命救急講習、姫路海上保安部での見学、体験を行った。多様な年齢や立場の方、職業にかかわる複数の現場を通して、自身の将来や地域について考えるきっかけとなった。



③合同防災訓練（全学年）

例年は幼小中高そして地域と合同で防災訓練を行っている。津波を想定した避難訓練や被災時に社会の一員として貢献できるようスキルアップを図っている。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の工夫もしながらであったが、消防署、自衛隊の指導のもと簡易担架の作成や搬送、土嚢づくりに真剣に取り組んだ。この体験を通し、校区の地理的特徴や災害の恐ろしさを改めて学び、少しでも減災に貢献できるよう知識を深めた。



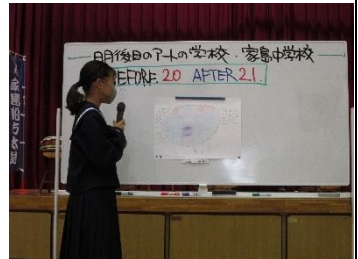
④出前おさかな講習会（1，2年）

海に囲まれた本校区の生徒であっても魚を捌く経験には個人差がある。そこで「出前おさかな講習会」を開催することにより、地元で漁獲される魚のおいしさを伝え、地産地消、魚食文化の伝承と海の恵みに感謝する心を育む。アジの三枚おろし、ソテーの実習、兵庫の漁業についての学習を行った。実習を通して地元の海の恵みとともに日常の家事への感謝の気持ちを大きくする体験となった。



⑤明後日のアートの学校（全学年）

姫路市立美術館主催のオールひめじ・アーツ&ライフプログラム招聘作家の日比野克彦氏による「明後日のアートの学校」「TANeFUNe」の漂流物・漂着物に着目した創造的な取り組みと講話を出張プログラムで実施した。TANeFUNeは瀬戸内海の島に漂着していたものを積んで家島本島に航行してきた。講師の先生方を2年生が演奏する家島船方太鼓で歓迎し、生徒は漂着物から発想したことを絵画と文で表現した。3年生は昨年度より海洋プラスチックごみ問題について調べ学習を進めてきたので、教科を横断した学習になった。



⑥調べてまとめる（全学年）

様々な体験活動を通して「ふるさとの海」に関する事柄について調べてまとめる活動に取り組んだ。1年生は地域について調べ壁新聞にまとめた。2年生は地域の産業や職業について体験したことを文集にまとめた。3年生は海洋プラスチックごみについて調べプレゼンテーションを作成した。それぞれ表現を工夫し「伝える事」に重点を置き取り組んだ。特に3年生は昨年度から引き続き、情報機器を活用した。作成したスライドや、発表時の記録は小学校とも共有し学びの継続につなげている。